

利用者・利用団体等からの 意見収集・整理の状況

【目次】

1. 意見の収集方法について
2. WEBアンケートの調査結果（全体集計）
3. WEBアンケートの調査結果（中流右岸域集計）
4. 利用団体等ヒアリングの概要

1. 意見の収集方法について

意見収集の目的と実施する調査の種類

2

意見収集の目的	調査方法
1. 地域における淀川とその河川敷の存在のイメージ、淀川河川敷の将来のあり方についての大まかな考え方を、 広域的な視点から把握	A. インターネットを活用した広域WEBアンケート調査
2. 実際に淀川河川公園を利用している立場から、利用している地区の現状における具体的な問題点・課題、今後の整備内容に対する要望を把握	B. 淀川河川公園地域協議会ホームページ上で回答できるアンケート調査 (これを補完するための、淀川河川公園等にて、携帯電話からアクセス、又は紙による調査票を入手して回答できるアンケート調査を含む)
	C. 淀川河川公園各地区の主要な利用団体等へのヒアリング調査 (又は利用団体のメンバーに対するアンケート調査)

調査の実施状況

3

調査方法	調査期間	実施状況
A. 広域WEBアンケート	平成22年 8月20日 ～8月25日	調査終了 (本日集計結果を報告)
B. ホームページ上で回答できるアンケート	平成22年 9月1日 ～10月31日	淀川河川事務所ホームページ上で実施中
		同時に、紙によるアンケート調査票を淀川河川公園にて配布、回収したものから集計中
C. 主要な利用団体等へのヒアリング	平成22年9月	ヒアリングを実施中

2. WEBアンケートの 調査結果 (全体集計)

調査概要

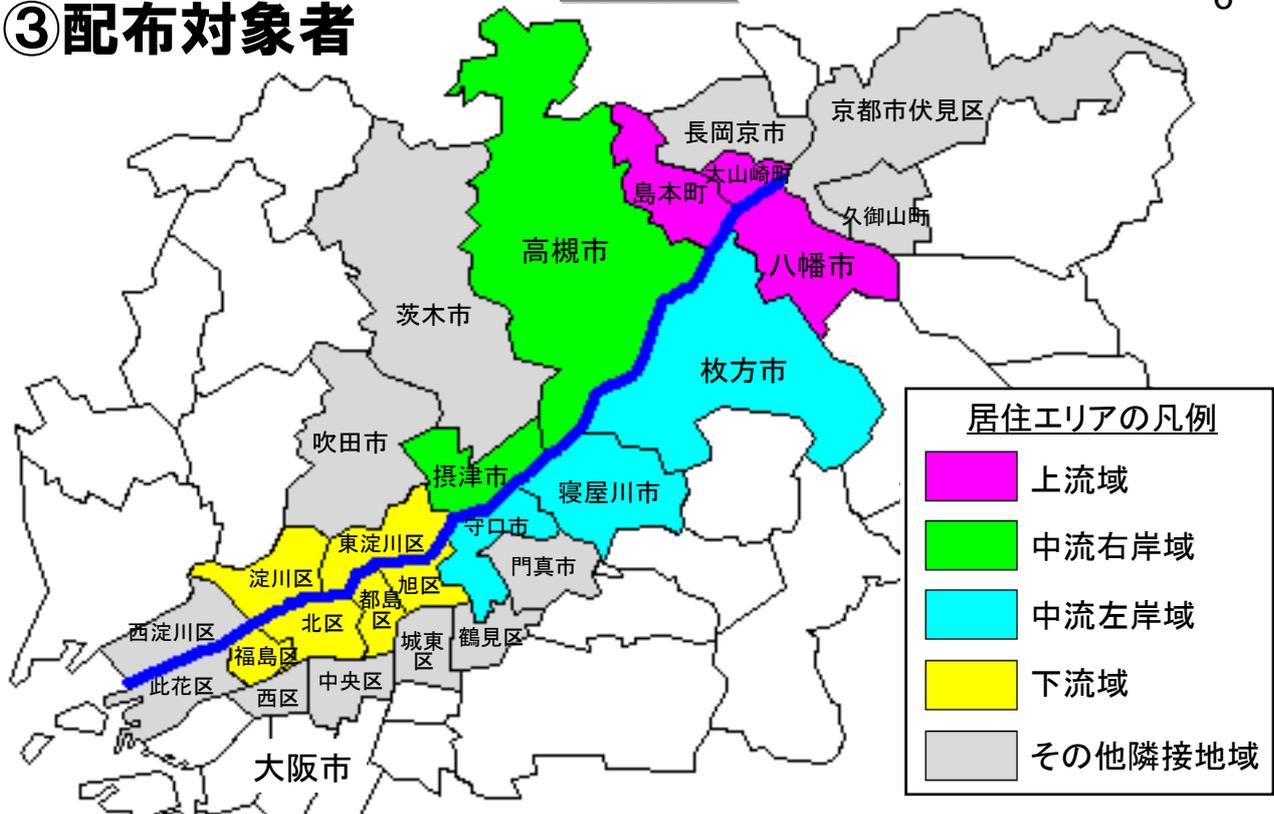
①意見収集の目的

地域における淀川とその河川敷の存在のイメージ、淀川河川敷の将来のあり方についての大まかな考え方を、広域的な視点から把握する

②調査方法

インターネットを活用した、
広域WEBアンケート調査

③配布対象者



H21年度に実施した河川公園利用者アンケート(サンプル数=約900人)の結果を参考に、来園者の約9割をカバーする範囲をWEBアンケートの配布対象居住エリアとした。

④調査期間： 平成22年8月20日～8月25日

⑤取得サンプル数

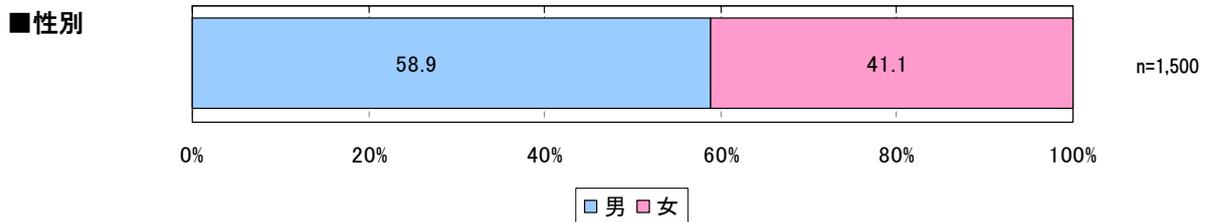
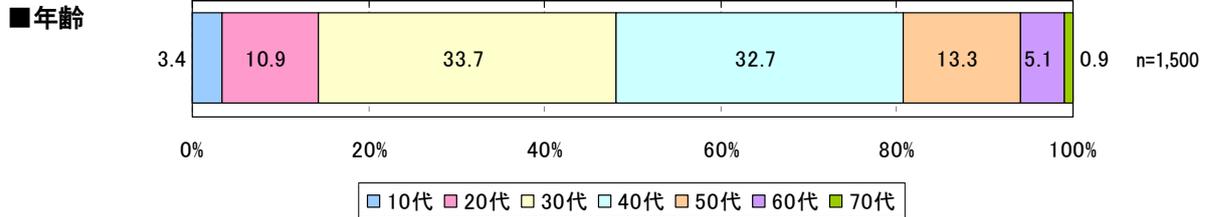
単位：サンプル

居住エリア	高頻度利用者 (ほぼ毎日 ～年に数回)	低頻度利用者 (年に1回 ～訪れたことがない)
上流域	200	100
中流右岸域	200	100
中流左岸域	200	100
下流域	200	100
その他隣接地域	200	100
合計	1,000	500

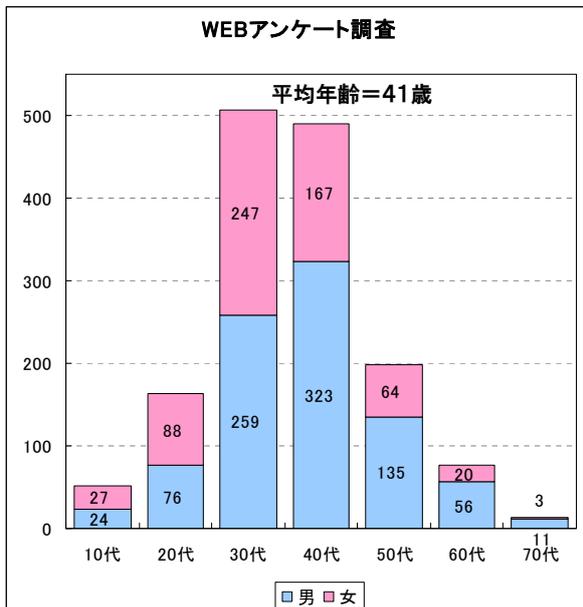
河川公園各地区の課題や整備の方向性に関する情報を確実に得るため、高頻度利用者を多めに(1,000サンプル)確保することとした。

年齢・性別

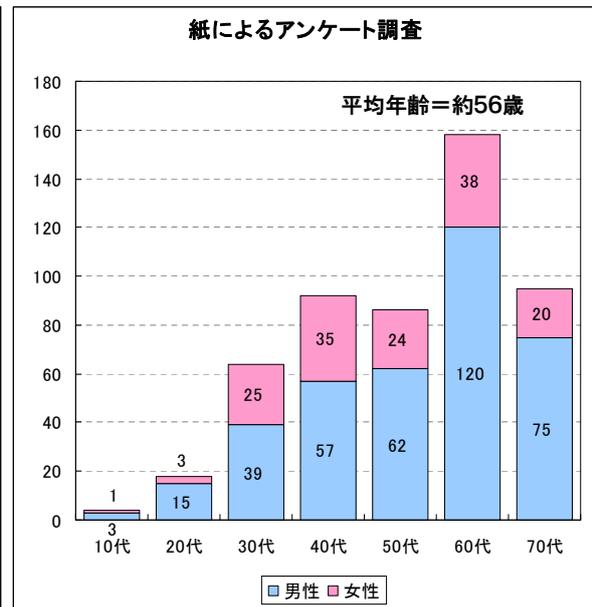
- WEBアンケートの回答者の年齢構成は、30代・40代が全体の7割近くを占めている。



参考 アンケート調査回答者の年齢・性別



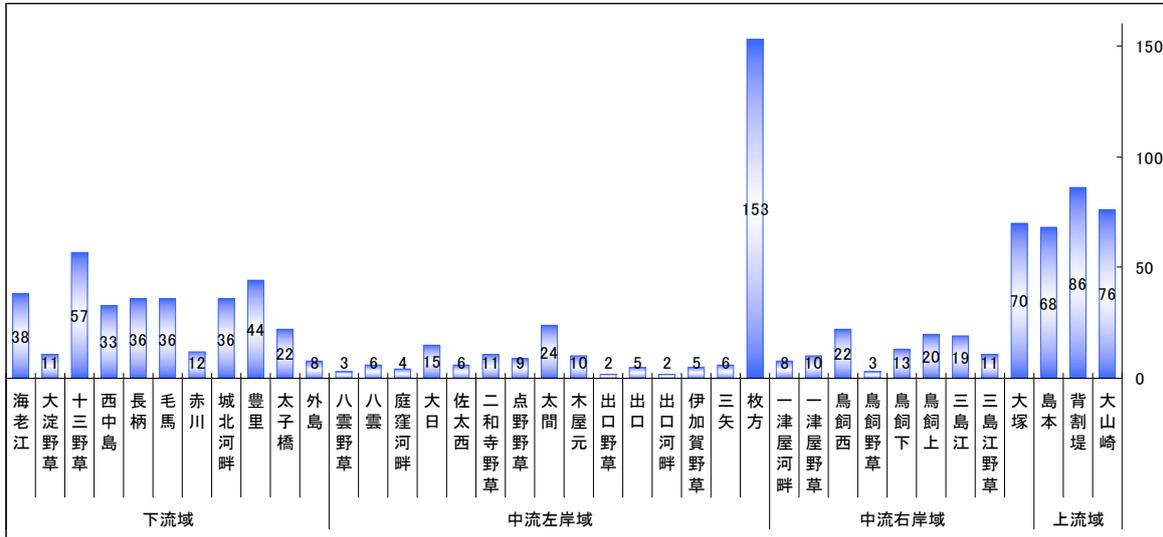
n=1,500



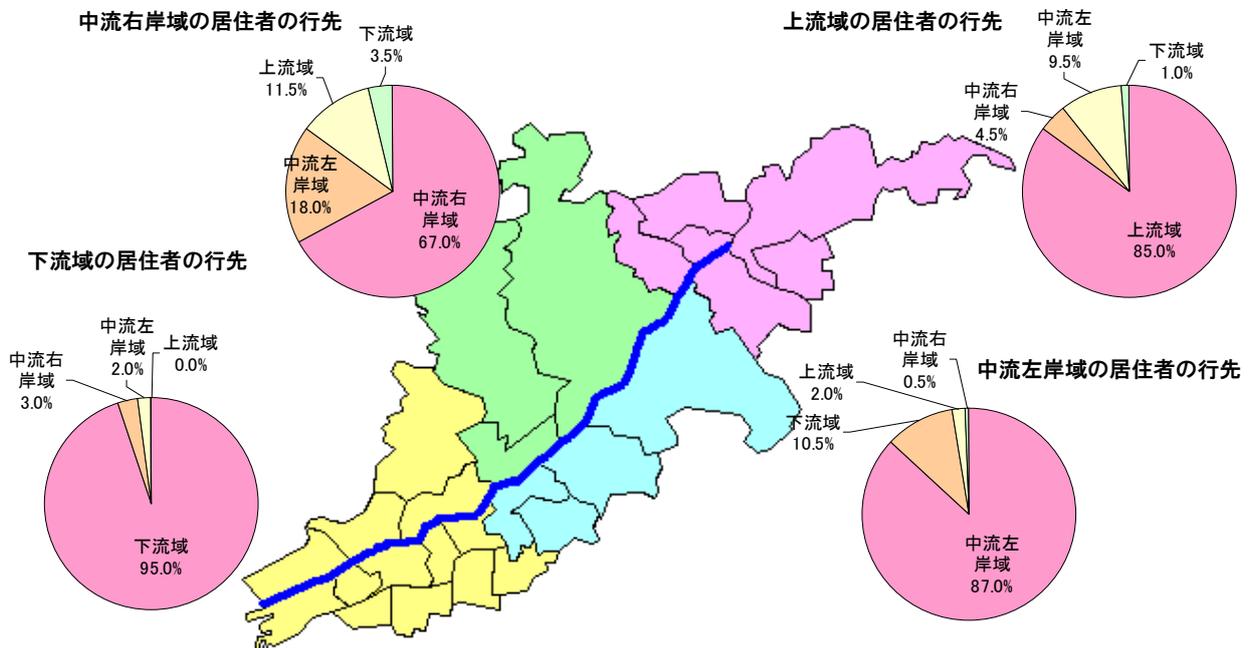
n=524 (9月22日時点)

- 上流域の島本地区、背割堤地区、大山崎地区、中流左岸域の枚方地区、中流右岸域の大塚地区に利用者が集中している。

■ 淀川河川公園で最も頻繁に利用する地区



- 中流右岸域の住民は、対岸や上流域の公園地区を利用している人が多い。

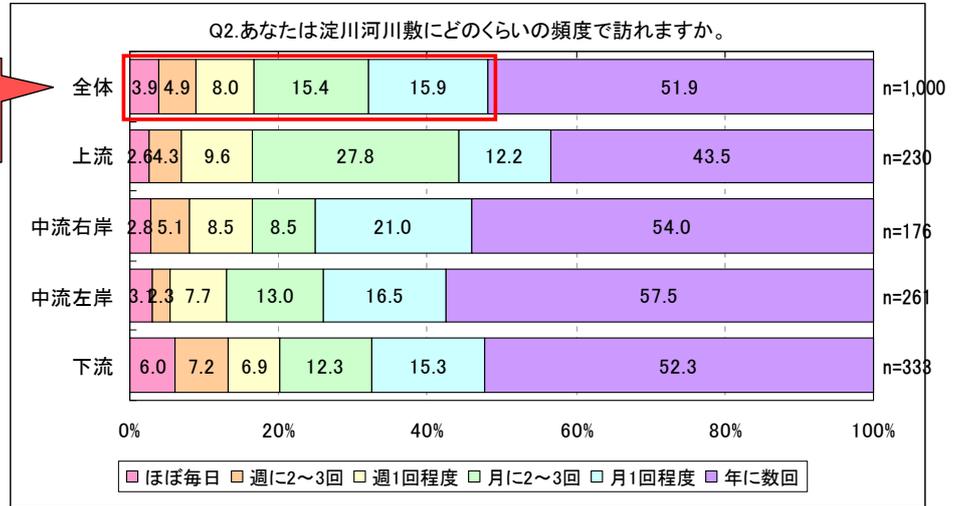


利用頻度

- 淀川河川敷を利用している人の約半数は、毎月1回程度以上訪れている。

■ 淀川河川敷に訪れる利用頻度

「月1回以上」訪れる人が約半数



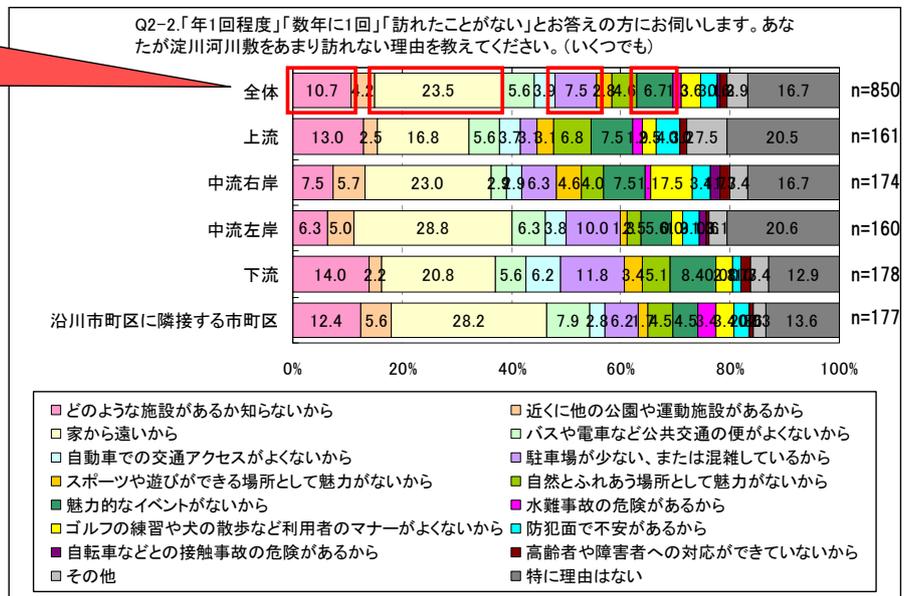
訪れない理由

複数回答

- 「家から遠いから」訪れないという意見が多く、約2割を占める。
- 次いで、「どのような施設があるか知らないから」、「駐車場が少ない、または混雑しているから」、「魅力的なイベントがないから」が多く、それぞれ約1割を占める。

■ 淀川河川敷をあまり訪れない理由

「家から遠いから」という理由がもっとも多く約2割

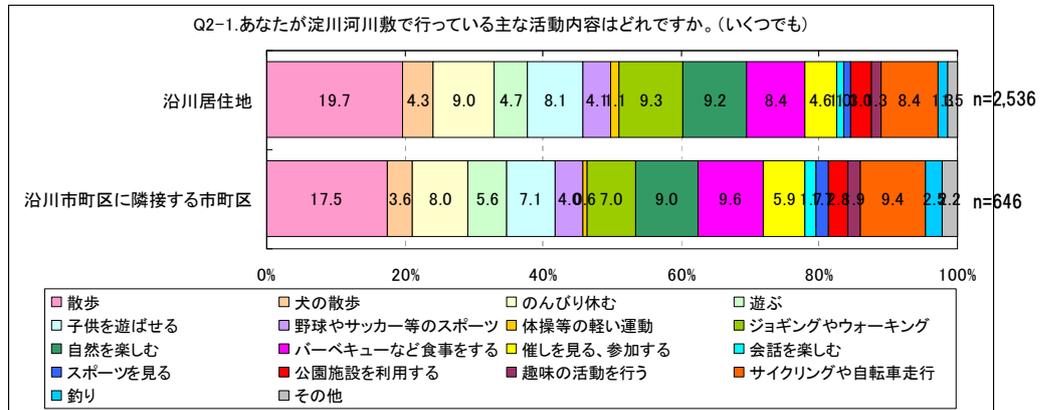


活動内容（1）

複数回答

- 「散歩」利用が最も多く、全体の2割程度となっている。
- 居住地と淀川公園との距離は利用内容にはあまり影響がない。

■ 淀川河川敷で行っている主な活動内容

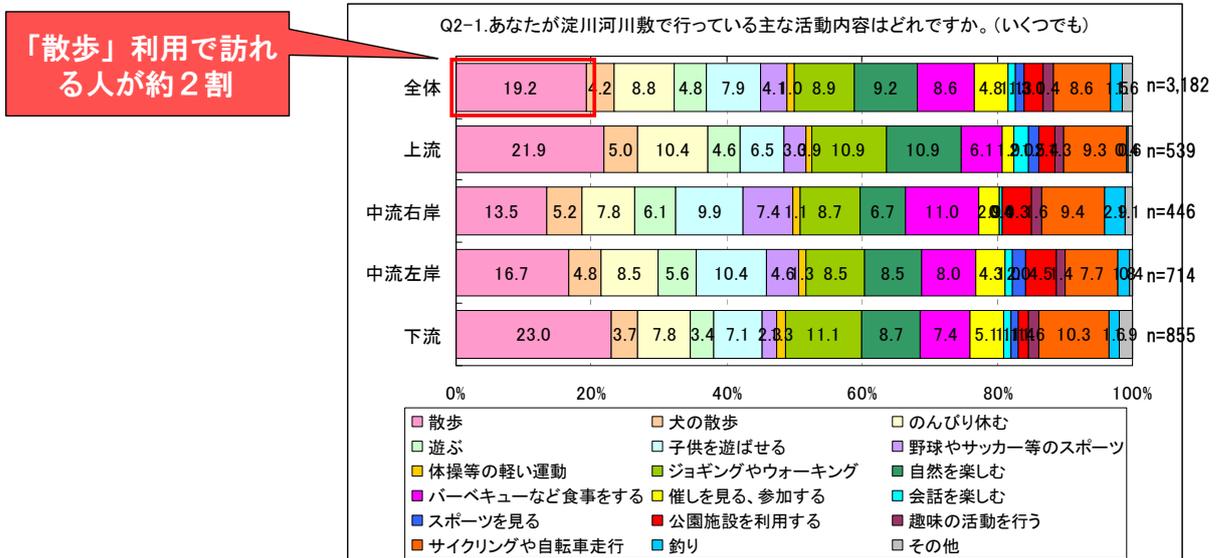


活動内容（2）

複数回答

- 全体的に、「散歩」利用が最も多く、約2割を占める。

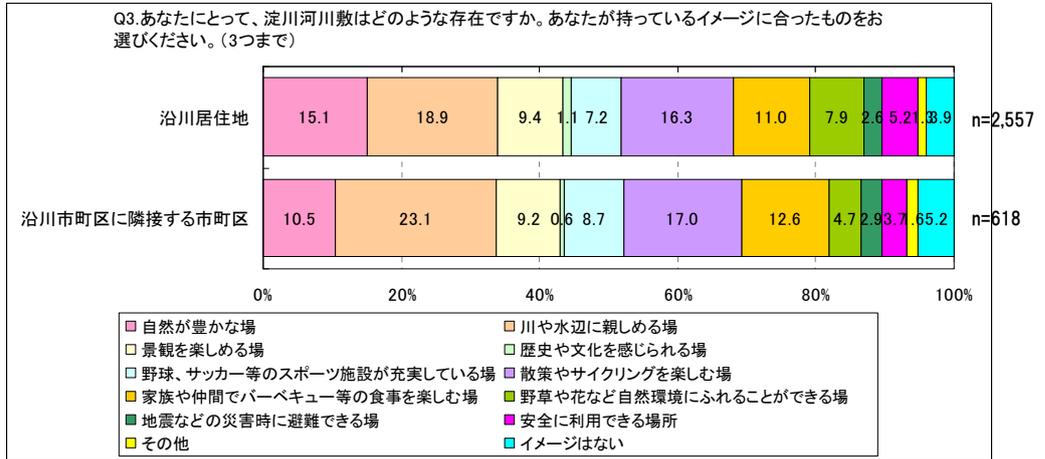
■ 淀川河川敷で行っている主な活動内容



河川敷のイメージ

- 「川や水辺に親しめる場」が最も多く、約2割を占める。
- 「散歩やサイクリングを楽しむ場」が多い。
- 沿川の住民は「自然が豊か」というイメージが強く、沿川に隣接する地域の住民は「水辺に親しめる場」のイメージが強い。

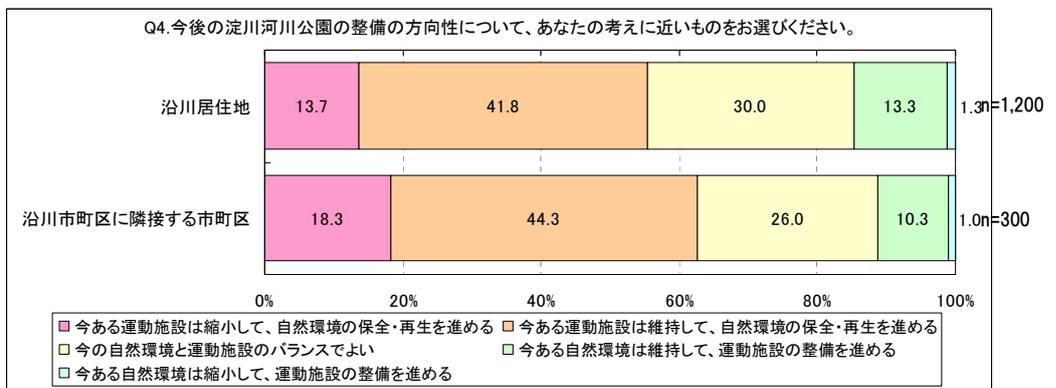
■ 淀川河川敷に持っているイメージ



公園整備の方向性

- 「今ある運動施設は維持して、自然環境の保全・再生を進める」と考えている人が最も多く、約4割を占める。

■ 淀川河川公園の整備の方向性

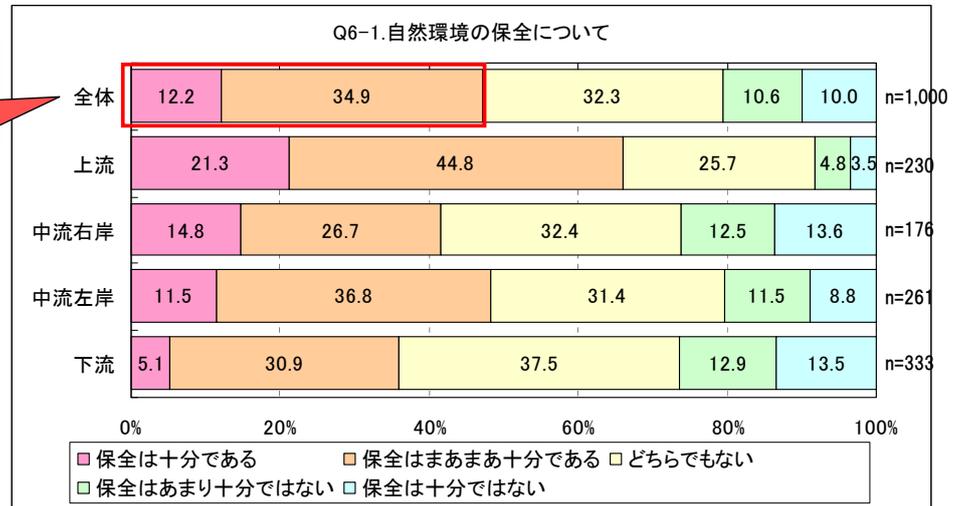


利用地区の現状（1）

- 自然環境の保全が十分であると認識している人が約5割を占める。
- 上流域の利用者ほどその傾向が強い。

■自然環境の保全について

自然環境が十分であると認識している人が約5割

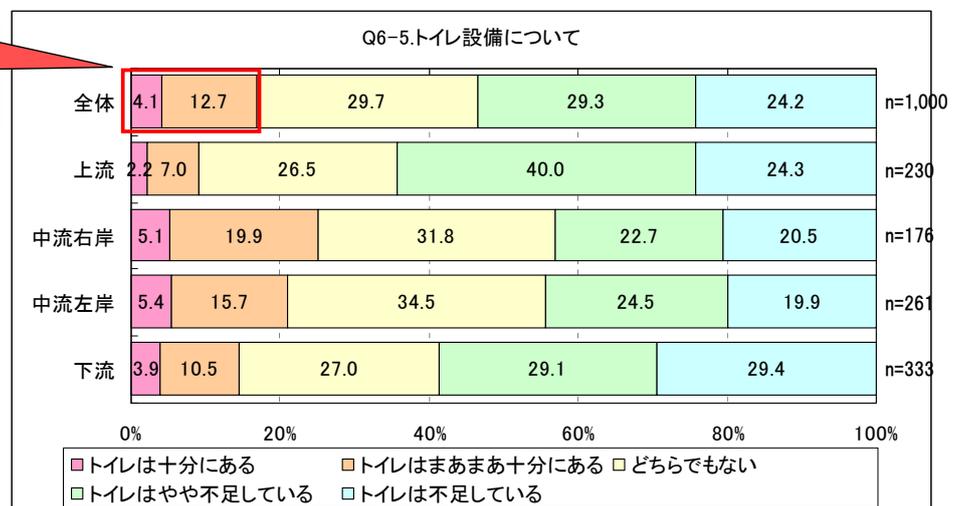


利用地区の現状（2）

- トイレ設備が十分にあると認識している人は2割程度であり、上流域の利用者は認識が低い。

■トイレ設備について

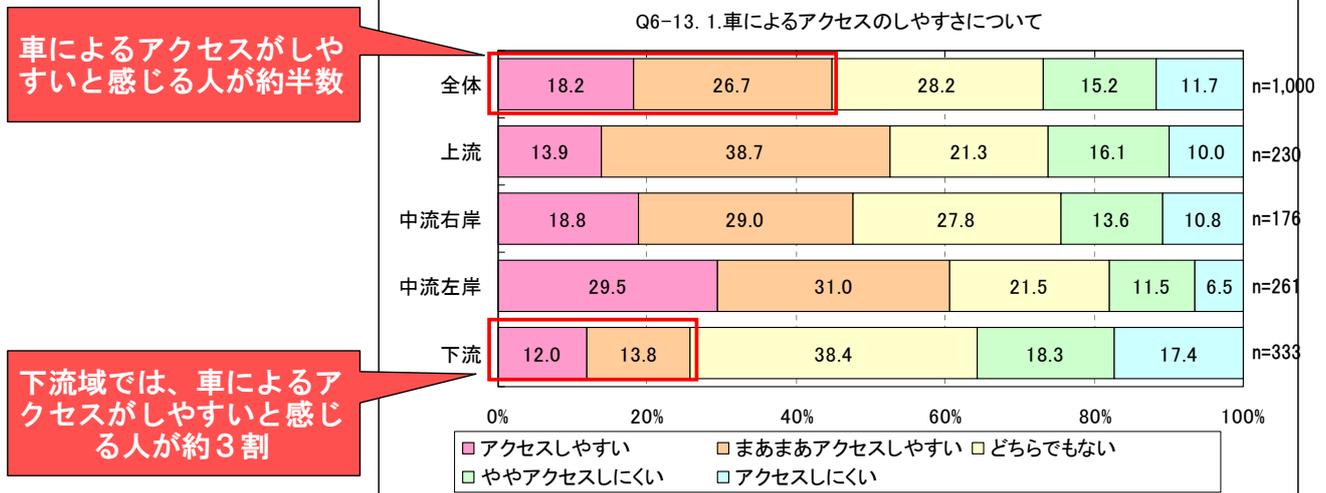
トイレが十分にあると認識している人は約2割



利用地区の現状（3）

- 車によるアクセスがしやすいと認識している人が約半数を占める。
- 下流域では、車によるアクセスがしやすいと認識している人が約3割しかない。

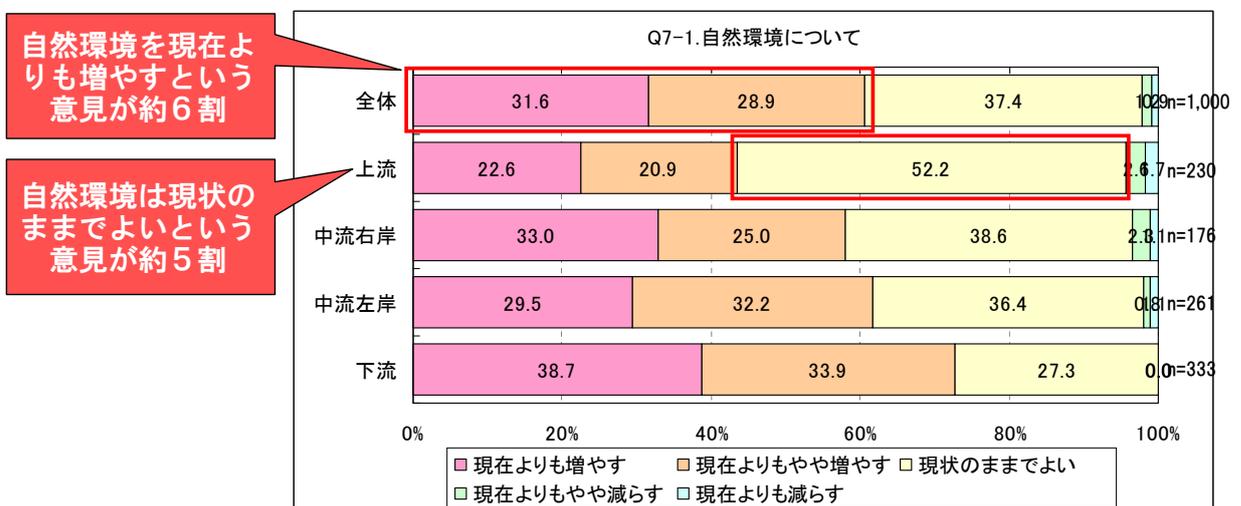
■車によるアクセスのしやすさについて



今後の整備への期待（1）

- 自然環境を現在よりも増やすことを期待する人が約6割を占めており、下流域ほど、その傾向が強い。
- 上流域では、現状のままでよいという意見が約半数を占める。

■自然環境について



3. WEBアンケートの 調査結果 (中流右岸域集計)

WEBアンケート結果の分析に あたっての地区区分の考え方

- 淀川河川公園各地区で配布した「紙によるアンケート調査票」の回収状況から、毎日の散歩など、隣接している2つ以上の地区を同程度に利用している方が多いことが判明

- 中流右岸域については、連続している2つの地区を以下のようにまとめて表示し、地域間の比較がし易いようにグラフを作成

一津屋河畔地区・一津屋野草地区



一津屋

鳥飼西地区・鳥飼野草地区



鳥飼西

鳥飼下地区・鳥飼上地区



鳥飼上下

三島江野草地区・三島江地区



三島江

全体は高頻度及び低頻度利用者を対象
中流右岸及び各地区は高頻度利用者を対象

複数回答

活動内容

- 中流右岸域では、「散歩」利用が最も多く、約1割を超える。
- 特に、一津屋、三島江では「サイクリング」利用が多く、鳥飼西では「バーベキューなど食事をする」が多い。

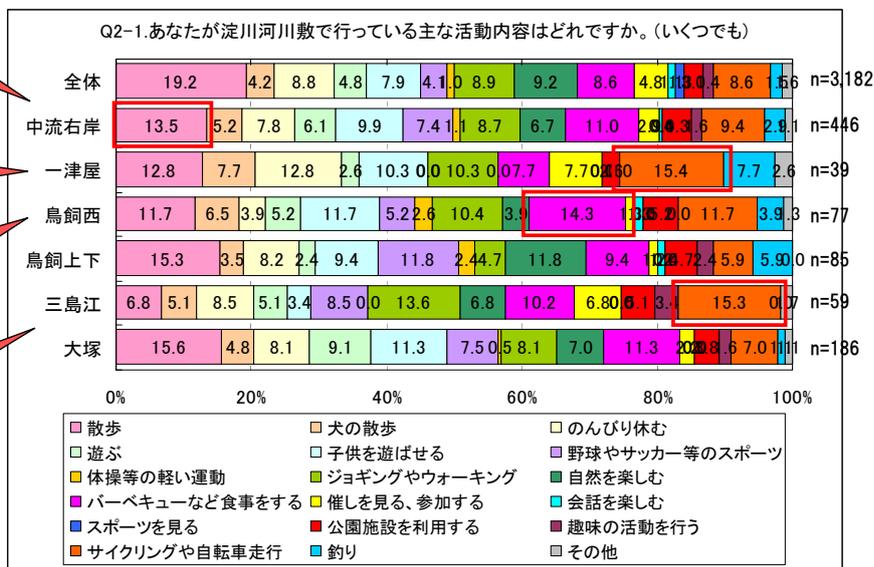
■ 淀川河川敷で行っている主な活動内容

中流右岸域では「散歩」利用で訪れる人が最も多く約1割

一津屋地区では、「サイクリング」の利用が多い

鳥飼西地区では、「バーベキューなど食事をする」の利用が多い

三島江地区では、「サイクリング」の利用が多い



全体は高頻度及び低頻度利用者を対象
中流右岸及び各地区は高頻度利用者を対象

複数回答

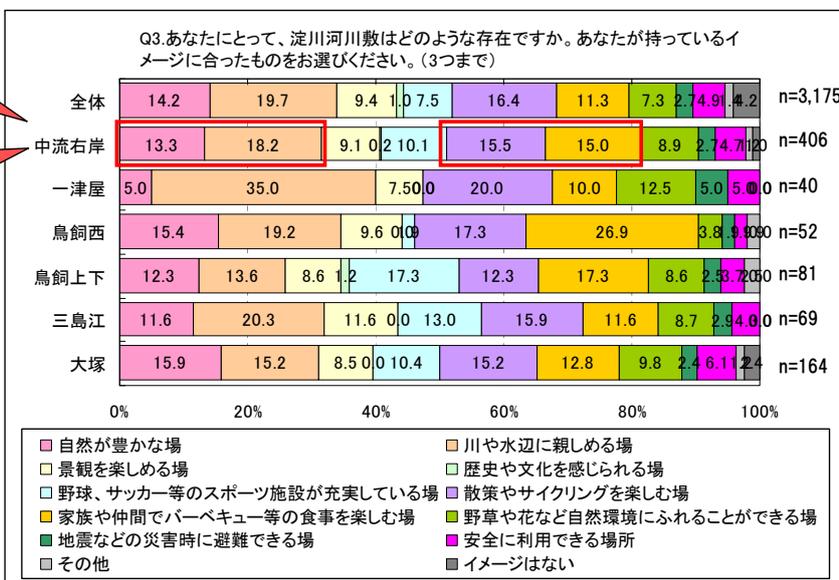
河川敷のイメージ

- 中流右岸域では、「川や水辺に親しめる場」が最も多く、約2割を占める。
- 次に、「散歩やサイクリングを楽しむ場」、「家族や仲間などで食事を楽しむ場」、「自然が豊かな場」が多い。

■ 淀川河川敷に持っているイメージ

「川や水辺に親しめる場」が最も多く約2割

「散歩やサイクリングを楽しむ場」や「家族や仲間などで食事を楽しむ場」が多い

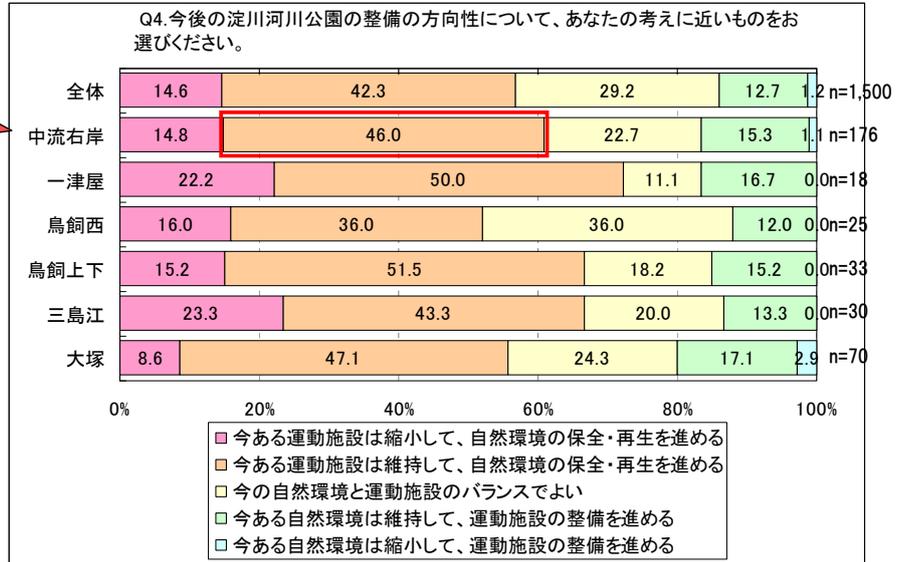


公園整備の方向性

- 中流右岸域全体では、「今ある運動施設は維持して、自然環境の保全・再生を進める」と考えている人が約5割を占めており、各地区とも同様の傾向を示す。

■淀川河川公園の整備の方向性

今ある運動施設は維持して、自然環境の保全・再生を進めるという考えが約5割

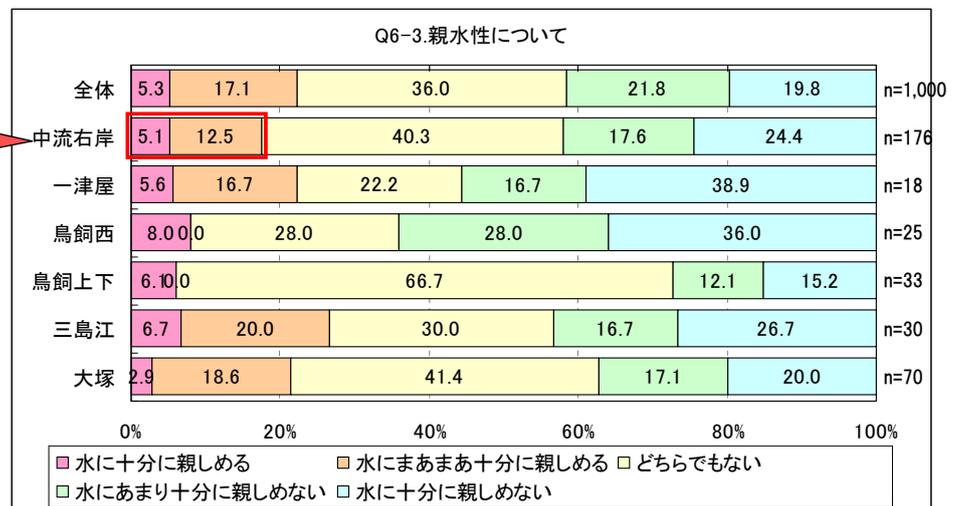


利用地区の現状（1）

- 中流右岸域では、親水性が十分にあると認識している人は2割程度しかいない。

■親水性について

水に親しめると感じる人が約2割

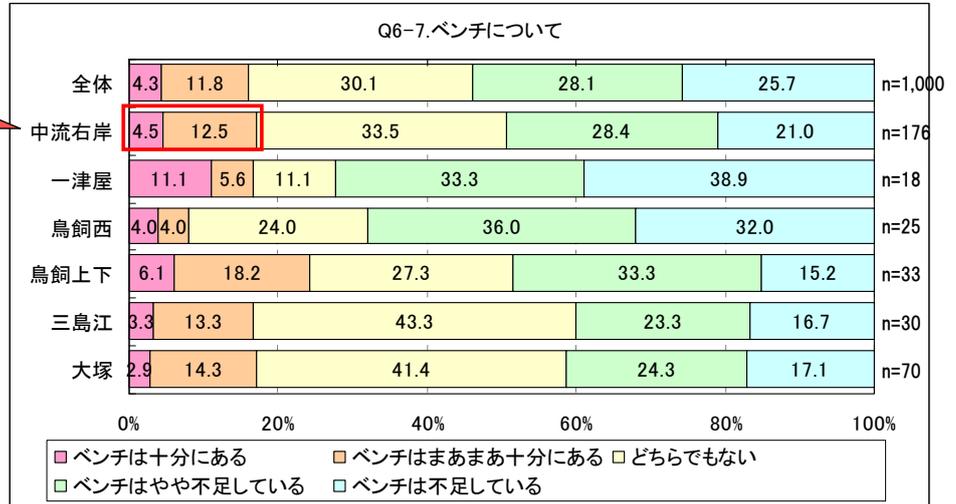


利用地区の現状（2）

- 中流右岸域では、ベンチが十分にあると認識している人は2割程度しかいない。

■ベンチについて

ベンチが十分にあると感じる人が約2割



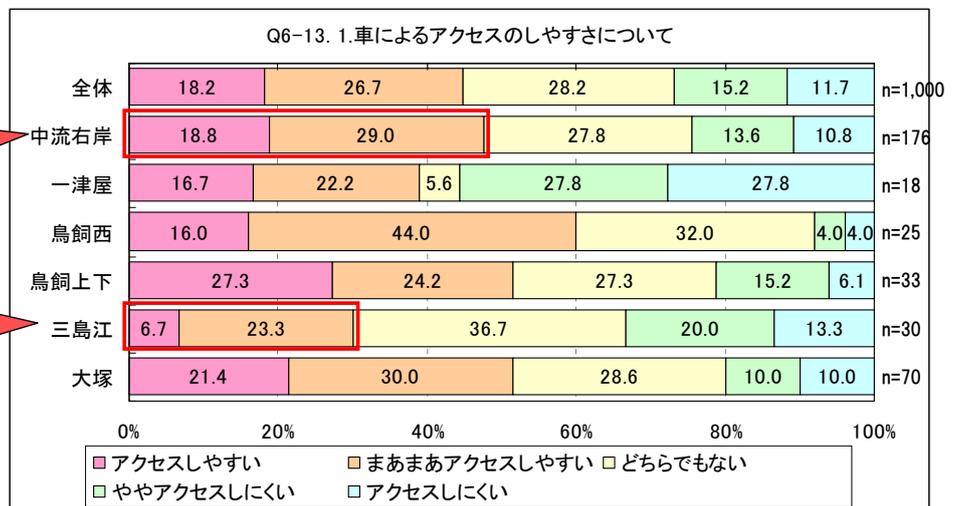
利用地区の現状（3）

- 中流右岸域では、車によるアクセスがしやすいと認識している人が約5割を占める。
- 三島江では、車によるアクセスがしやすいと認識している人が約3割と少なくなっている。

■車によるアクセスのしやすさについて

車によるアクセスがしやすいと感じる人が約5割

三島江では、車によるアクセスがしやすいと感じる人が約3割

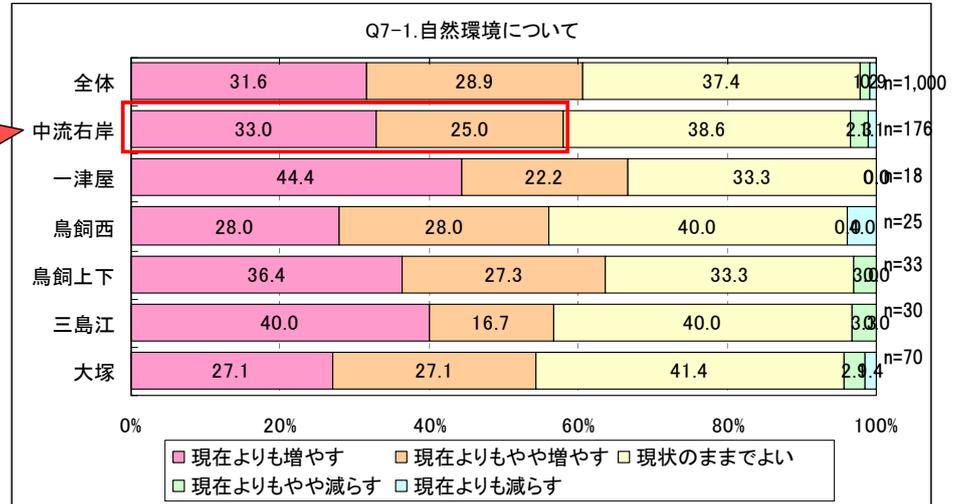


今後の整備への期待（1）

- 中流右岸域では、自然環境を現在よりも増やすことを期待する人が約6割を占めており、各地区とも同様の傾向を示す。

■自然環境について

自然環境を現在よりも増やすという意見が約6割

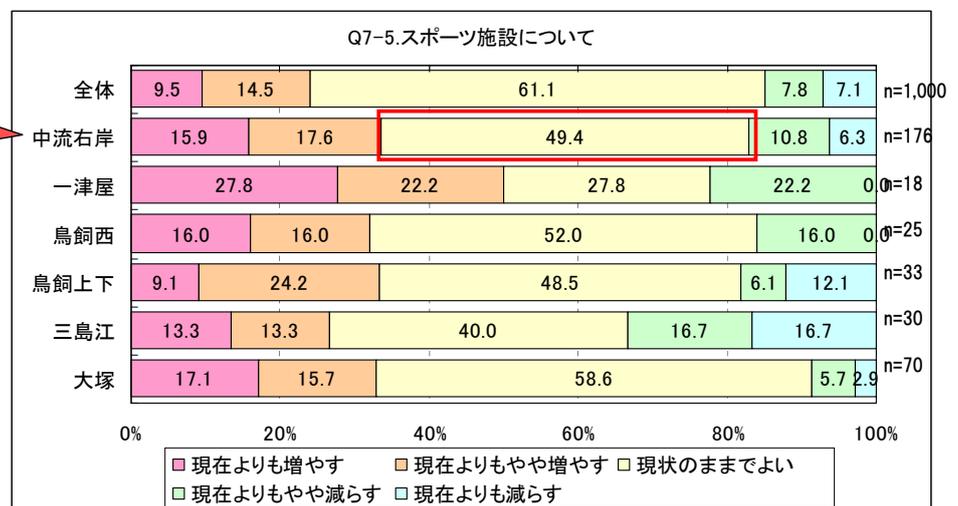


今後の整備への期待（2）

- 中流右岸域では、スポーツ施設の今後の整備について、現状のままでよいと思う利用者が約5割を占める。

■スポーツ施設について

スポーツ施設について、現状のままでよいという意見が約5割

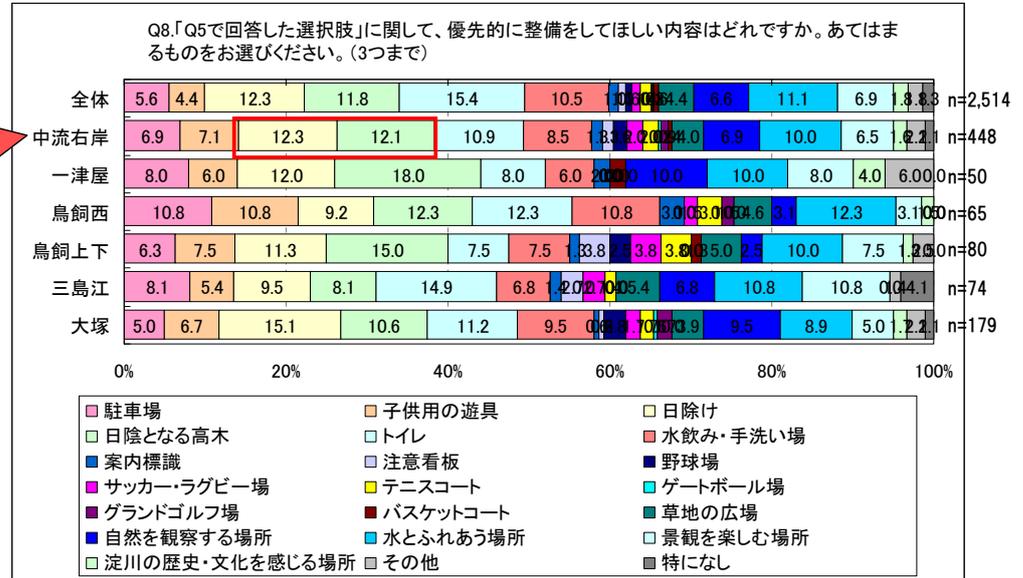


優先的な整備内容

- 中流右岸域では、日除けや日陰となる高木の整備要望が最も多い。
- 次いで、トイレ、水とふれあう場所等の要望が多い。

優先的に整備してほしい内容

日除け、日陰となる高木の整備要望が最も多く約1割



利用団体等ヒアリングの概要

ヒアリング対象の利用団体等

- ・乙訓青年会議所まちづくり実行委員会
- ・乙訓桂川愛護会
- ・藍野療育園（肢体不自由児通園施設）
- ・高槻市立第七中学校
- ・淀川河川レンジャー（酒井氏）

地域区分	上流域	利用団体等の名称	乙訓青年会議所 まちづくり実行委員会
主な活動地区	大山崎地区		

取組みの概要

- ・年1回、大山崎地区で「乙訓水辺フェスティバル」を開催
- ・より多くの市民に地域の自然環境などの良いところを住民に知っていただくために、スペースが広い大山崎地区を選択
- ・イベントの内容は、竹とんぼづくり、竹のイカダ下り体験、魚のつかみ取り等。

ご意見の要点

- ①河川公園でありながら水にふれあう場所が少なく、水に近くて実際は遠い。水に近づける機会があれば、淀川河川公園の魅力の向上につながる
- ②地域の自然環境などの良いところを、住民に知ってもらうことが大切。淀川河川公園でのイベント開催はそのための良い機会となるため、イベント利用に配慮した整備が望まれる
- ③近隣自治体と連携してイベントを開催できれば、背割堤地区など隣接する公園地区を一体的に利用しやすくなる

地域区分	上流域	利用団体等の名称	乙訓桂川愛護会
主な活動地区	大山崎地区		

取組みの概要

- ・主に桂川やその支流の小畑川を中心に、自然観察会の開催、親水空間の保全、植物調査、外来種の駆除、魚の調査、河川清掃等を実施
- ・大山崎地区の前で親子カヌー教室等を実施

ご意見の要点

- ①現状の河川公園では、河川を楽しむことができていない
- ②子供たちが河川公園で自然観察をできるようにすることが望ましい
- ③川を利用してもらうためには、川に近づけるようにすることが非常に重要。そのために川にアプローチできる道、川沿いに歩ける道が不可欠
- ④大山崎地区付近の桂川や木津川はカヌーを楽しめる場としてのポテンシャルが高い。カヌーを楽しむには船着場がなくても、河原があり、水辺まで行けるなだらかな道があれば十分

地域区分	上流域	利用団体等の名称	藍野療育園 (肢体不自由児通園施設)
主な活動地区	大山崎地区		

取組みの概要

- ・身体障害者の遠足で大山崎地区を1回利用
- ・施設から短時間(約30分程度)で行けること、広々としたフラットな空間、管理員が常駐していること、緊急の場合に備えて病院等が近くにあることが、身体に障害がある人の利用にあたって必要な条件。水辺に近づけることはあまり重要ではない

ご意見の要点

- ①河川公園は、フラットで移動しやすい空間、人目を気にしなくてもよい広さ、管理員が常駐していることなど、身体障害者による利用のポテンシャルは高い
- ②広くて爽快であることや、土や芝生に直接ふれられることが河川公園の魅力
- ③木陰や身障者用のトイレがあるとよい
- ④一時使用の申請手続きは申請書の入手と提出の2回サービスセンターに行く必要があるため面倒。FAX等で手続きが可能になれば利用しやすくなる

地域区分	中流右岸域	利用団体等の名称	高槻市立第七中学校
主な活動地区	三島江地区他		

取組みの概要

- ・中学校の理科クラブによる三島江地区～芥川合流点の淀川の水質と生物調査をを継続的に実施
- ・淀川の上流部から河口までを見て回り、淀川河川敷はゴミが非常に多いことを発見し、河川サポーターの申請を行い、毎月清掃活動を実施

ご意見の要点

- ①淀川河川敷にはゴミが非常に多い
- ②環境学習等への利用には、まず水辺に近づけることが重要
- ③淀川の水質は、水にふれあうには問題のない水質である
- ④淀川周辺の見どころを解説する看板類が少なく、反対に行為禁止の看板類が非常に多い。看板の数や種類が多とかえって読む気がしなくなる
- ⑤高槻の三島江付近のくらわんか舟の発祥地など、淀川周辺には知られていない資源がある。淀川や周辺のまちの魅力を解説する看板があるとよい

地域区分	中流右岸域	利用団体等の名称	淀川河川レンジャー(酒井氏)
主な活動地区	三島江野草地区、大塚地区		

取組みの概要

- ・野鳥・生物・植物等のモニタリング調査を実施
- ・自然観察会の開催

ご意見の要点

- ①三島江野草地区には水面の高さが異なる湿地があり、多様な生物生息環境が存在している
- ②自然生態系の保全のためには冠水頻度による地形管理が必要。ただし、水辺に近づくための地形管理と自然回復のためのそれは別個に考えるべき
- ③野草地区には環境学習目的の情報提供が不足している
- ④大塚地区の高水敷の切下げが予定されている箇所は、水面との高低差が大きく、現状でも水面と中洲の植生がよく見える